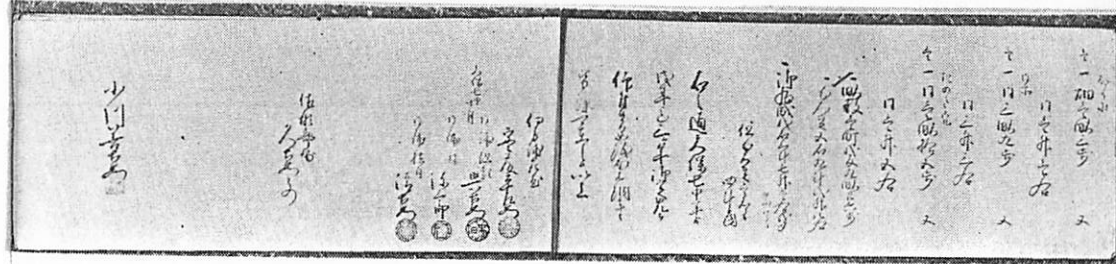


目次

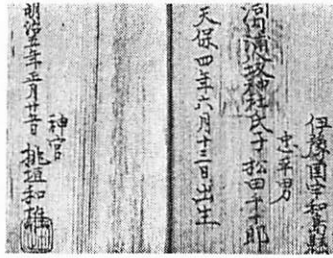
第一章 自然

一	位置・面積・人口	一
二	地勢の特色	三
三	風土・地質・土じよう	四
四	気候	六
1	気候	六
2	潮位の変化	八
五	生物・鉱物	九
1	生物	九
2	鉱物	三
六	自然の災害	三
1	概況	三
2	台風	五
3	豪雨	七
4	干ばつ	八
5	豪雪	〇

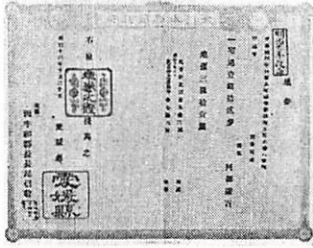
御定免小下札 (天保7年)



氏子札 (明治5年)



地券 (明治13年)



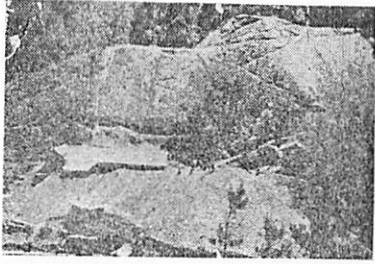
第二章 沿革

- 6 地震と津波……………二二
- 7 資料……………二二
- 台風記録……………二三
- 豪雨記録……………四三
- 干ばつ記録……………五一
- 豪雪記録……………五六
- 地震と津波記録……………五九
- 一 古代社会……………六四
- 1 れい明期……………六四
- 2 奈良・平安時代……………六四
- 二 封建社会……………六五
- 1 鎌倉時代……………六五
- 2 室町・安土桃山時代……………六五
- 3 天正・文録・慶長の頃の村(浦)……………六九
- 4 藩政時代……………六九
- 5 藩政時代の村(浦)……………七一
- 三 近代社会……………七八

第三章 行政の変遷

- 1 明治時代……………七八
- 2 大正時代……………八二
- 3 昭和時代……………八六
- 一 藩政時代……………九六
- 1 概況……………九六
- 2 行政の区画と領主・農民のつながり……………九六
- 3 村(浦)の性格と庄屋所……………九六
- 4 村方三役人……………九七
- 5 五人組……………九九
- 6 寄り合い……………九九
- 7 人口……………〇〇
- 8 租税……………〇〇
- 9 土木工事……………〇〇
- 二 村政時代……………〇一
- 1 明治維新後のうつりかわり……………〇一
- 2 市制・町村制の公布と伊方村・町見村の成立……………〇八
- 3 伊方村のあゆみ……………一〇

忠城鉾山（明治43年）



広 告（明治42年）



「せんば」での麦こき



4	町見村のあゆみ	一三三
三	伊方町の誕生	一四五
1	合併促進協議会の設置	一四五
2	合併促進協議会の経過と専門委員会の活動	一四七
3	新町名決定と役場の位置	一五〇
4	伊方村と町見村の合併議決	一五一
5	合併申請と愛媛県告示第一四七号	一五三
6	新「伊方町」の発足	一五四

第四章 産業と経済

一	概 況	一六九
二	産業分布	一七〇
三	土地利用の変遷	一七二
1	土地利用の概況	一七二
2	埋め立て	一七五
3	土地利用の現状	一八四
四	農 業	一八四
1	耕地の現状	一八四
2	農業の歴史	一八九

3	農業の発展	二〇二
4	農業の近代化	二一五
5	農業団体	二一九
五	林 業	二三三
1	概 況	二三三
2	林業の現状	二三四
3	林業団体	二三六
4	林業の振興方向	二三八
六	水 産 業	二三八
1	藩政時代の水産業	二三八
2	明治以後の水産業	二四四
3	漁業の現状	二五一
4	水産業団体	二五四
七	商 工 業	二五八
1	商 業	二五八
2	工 業	二六〇
3	商 工 会	二六〇
八	鉾 業	二六二
1	概 況	二六二

湊浦農繁託児所（昭和14年）



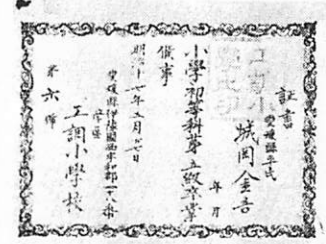
全国へき地教育研究大会（有寿来小 昭和37年）



農学校の実習風景（大正3年）



小学校の卒業証書（明治17年）



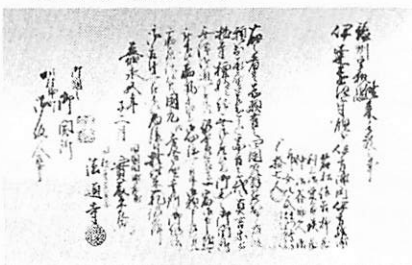
2	主要鉱山	二六二
3	鉱業の現状と将来	二六四
4	銅鉱製錬所の煙害史	二六五
九	砂利船	二七〇
一〇	伊方杜氏	二七二
一一	金融	二七五
1	初期の金融機関	二七五
2	西南銀行	二七六
3	銀行の統合	二七七
4	金融機関の現況	二七八
第五章 教育		
一	藩政時代の教育	二七九
1	宇和島藩の学校	二七九
2	寺小屋	二八〇
二	近代の学校教育	二八一
1	教育の普及	二八一
2	戦時下の教育	二八九
3	民主教育の新体制	二九二

4	私立伊方実践農業学校	二九四
5	町内の学校概況	二九八
6	学校給食	三〇四
7	教育団体	三一六
三	近代の社会教育	三二三
1	明治初期から戦前まで	三二三
2	戦時下の体制	三二六
3	戦後の社会教育	三三〇
4	社会教育団体	三三七
四	教育委員会の歩み	三五三

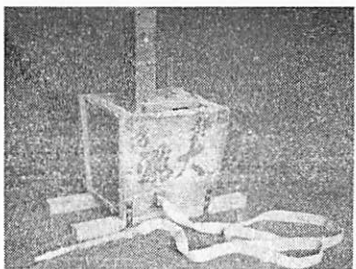
第六章 厚生

一	社会福祉	三五八
1	明治・大正頃の社会事業	三五八
2	戦前の社会事業	三五八
3	戦後の社会福祉事業	三五九
二	保健衛生	三六七
1	衛生	三六七
2	保健	三七四

往来手形（嘉永5年）

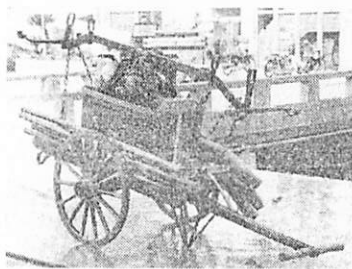


有寿来線バス開通（昭和42年）



消 防 ポ ン プ

▶ 明治三年
◀ 大正三年



三 水 道

- 1 簡易水道……………三七六
- 2 上水道……………三七九
- 3 水道の現状……………三七九

四 医 療 保 険

- 1 社会保険制度……………三八二
- 2 国民健康保険のあゆみ……………三八二
- 3 国民健康保険の現状……………三八七
- 4 町の医院……………三九二

五 国 民 年 金

三九三

第七章 交通と通信

一 陸 上 交 通

- 1 昔の道……………三九四
- 2 道路の開発……………三九五
- 3 陸上交通の発達と現状……………四〇二

二 海 上 交 通

- 1 港 湾……………四〇四
- 2 海上交通の発達と現状……………四一一

三 電 気 と 通 信

- 1 文明の光……………四一六
- 2 ラジオとテレビ……………四一七
- 3 マイクロウエーブ（電々公社伊方統制無線中継所）……………四一八
- 4 郵便事業……………四一八
- 5 電信と電話……………四二一

第八章 治安と消防

一 治 安

- 1 藩政時代の治安……………四二三
- 2 警察官署配置の沿革……………四二三
- 3 伊方警察官駐在所の沿革……………四二五
- 4 町見警察官駐在所の沿革……………四二六

二 消 防

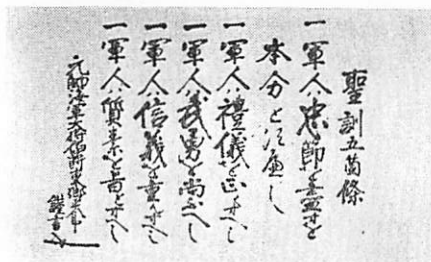
- 1 伊方町消防団の沿革……………四二六
- 2 伊方町消防団の現状……………四三一
- 3 伊方町の火災記録……………四三四

第九章 宗教と文化

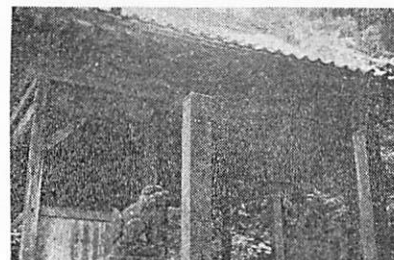
北京城進撃の図（明治28年）



聖訓五箇条



おてんのうさま（河内八坂神社）



一 宗 教……………四三七

1 神 社……………四三七

2 寺 院……………四三九

3 諸 宗 教……………四四五

二 町の文化……………四四九

1 年中行事……………四四九

2 風 俗……………四五六

3 習 慣……………四六一

4 方 言……………四六五

5 民 謡……………四八三

6 民話と伝説……………四八九

7 文化財……………四九九

第一〇章 兵 事

一 徴兵令の実施と郷土……………五一四

1 郷土の管轄区……………五一四

2 徴兵検査あれこれ……………五一四

3 入営と満期……………五一六

4 兵營生活……………五一七

5 松山第二連隊史……………五二〇

6 簡閲点呼……………五二五

7 在郷軍人分会……………五二六

8 軍 友 会……………五二七

二 戦争と郷土……………五二八

1 戦 死 者……………五二八

2 従軍日誌と遺書……………五二九

第一章 官公庁及び諸団体

一 官公庁と主な行政機関等……………五三八

1 官 公 庁……………五三八

2 主な行政機関等……………五四〇

3 学校・保育所・その他……………五四四

二 諸 団 体……………五五二

1 経済・金融団体……………五五二

2 諸 団 体……………五五五

第二二章 郷土のために尽くした人々

……………五五七

追 録

- 一 人口の移りかわり……………五七七
- 二 町づくりの仕事……………五七九
- 三 産業のようす……………五八二
- 四 進む観光開発……………五八八
- 五 町民の生活……………五九一
- 六 私たちの選んだ人……………五九二

付 録

- 百姓一揆……………五九五
- 一 伊方騒動……………五九五
- 二 二見騒動……………六〇三
- 三 農民騒動発生状況……………六〇七
- 役員録……………六〇九

伊方町年表……………六三一



第一章 自然

一 位置・面積・人口

伊方町は、佐田岬半島の基幹に位置し、東は保内町、西は瀬戸町に接している。南は宇和海に面し、点在する黒島・佐島・大島・日振島の向こうに、九州地方が望まれ、北は瀬戸内海をへだてて、遠く中国地方の山なみを見ることができ、地図上の位置は、次のとおりである。

東端	水ノ口	東経百三十二度二十三分
西端	足成越	東経百三十二度 十七分
南端	石見向	北緯 三十三度二十七分
北端	立神	北緯 三十三度三十一分



大島上空より伊方町をのぞむ

総面積は、二八・六四平方キロメートルで、町内には、二五の部落があり、人口は、昭和四〇年の国勢調査によると、男四六九六人、女五二二八人、計九九二四人である。